

## 平成29年度 第4回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日 時：平成30年2月1日（木）14時00分～16時00分

場 所：尾道市立大学E棟1階120会議室

出席者：尾道市公立大学法人評価委員会 堂本委員長、瀬戸委員、高垣委員、豊田委員  
事務局 中津総務課長、岡総務課長補佐、小田原主任、  
石井主事

公立大学法人尾道市立大学 中谷理事長、菅理事、藤澤理事、  
邵経済情報学部長、吉原芸術文化学部長、  
信木日本文学科長、石井総務課長、土岸総務  
課長補佐、崎丸学務課長、斎藤企画広報室長、  
堀江係長、森下主任、三上主事

報告事項：1 平成29年度第3回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について

議 題：1 公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について

2 公立大学法人尾道市立大学中期計画（第2期）について

3 公立大学法人尾道市立大学の年度業績評価方法について

その他：4 平成30年度尾道市立大学一般入試願書受付状況について

## 【報告事項】

## 1 平成29年度第3回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について

平成29年度第3回評価委員会議事要旨について、審議の結果、誤字3字と出席者の役職名を訂正することとし、速やかに公開することとした。また、前回欠席者から次の意見が出された。

(委員) 前回の評価委員会に出席できなかったことから、事前に事務局へ意見を出し、多くの企業が期待することは、与えられた仕事をこなす能力だけではなく、自らリーダーシップを持って切り開いていく人材が必要とされていて、そこを大学として教育すべきだという趣旨の話をした。

それが、評価委員会の議論の中でグローバルリーダーを養成するという趣旨になり、大学全体の目標とは疑問を感じるという趣旨へ変わってきたが、尾道市立大学をグローバルリーダー養成校にすると発言したつもりはない。

リーダーシップの重要性を大学として考えるべきだという認識でいて欲しい。

(委員長) 議事要旨を変更する必要はないが、先ほどの委員の意見を共通認識とする。

## 【議 題】

- 1 公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について、事務局より説明を行った後に、全会一致で承認された。
- 2 公立大学法人尾道市立大学中期計画（第2期）について、法人より説明を行った後に、次の意見が出された。

また、今後、市と法人が協議し、修正を行うことに必要となった場合は、評価委員会で審議を行うこととし、修正を行わない場合は、本計画（案）が適当であるとの意見とする意見書を市へ提出することとした。

### 【第3 教育研究等の質の向上に関する目標】

(委員長) 多数の項目内容を集約して項目数を減少させたという法人からの説明だったが、特に意識して増減した箇所はあるか。

(法人) 内容が重複したものを集約している。教育と研究、学生支援という項目自体は前回と変更していないが、実施する上で重点を強調した形で計画を作成している。

教育面では単位数だけではなく、ナンバリングを付けて順序よく履修させる仕組みを示している。

また、学生が自発的に学び、発表する力を身につけるための教育を強調している。さらに教員もアクティブラーニングを活用した授業編成を検討し、実践することで教育力の向上にもなる。

教養教育は非常に重要で、全学部の1学年に対して、大学の特色を生かした教養教育をさらに増やしたいと考えている。

また、大学院教育及び定員数確保が大きな課題であり、留学生を受け入れて大学院教育を伸ばすことや、社会人が学び直す体制を作る必要があると考えている。

国際交流においては、多数の留学生を受け入れ、それを上回る学生を輩出したいと考えており、実行するためには現在の体制の延長では難しいと考えている。単に学生を留学させるだけではなく、留学期間や学習内容について検討が必要だと考えている。

(委員長) 体型的な教育課程が編成できるということが大学の意志として書き込んであると思うが、計画の中にある、カリキュラムマップを作成するといった言葉や、ナンバリングを導入する、アクティブラーニングの実施をする等の言葉を見ても、大学に直接関わっていない評価委員としてはどのように捉えるべきか分かりづらい。しかしながら、大学への要望や期待は、直接関わっていない人からできると思う。

(委員) 在学中に論理的思考力、表現力を高められるのは素晴らしいと思う。昔はごく一握りのリーダーシップを持つ人がいて、残りの人がついていけばいいという形だったが、現在は全員がそれぞれリーダーシップを持っていないといけないというのが経済の一般的な感覚になってきている。

一個人が仕事ができ、世界で活躍できる人になることは重要だが、その人がいることにより、周りに良い影響を与えられるような人材の育成が重要だと思う。誰かに何かを言われてやるのではなく、自らが行動できて、周囲にいい影響を与えられるようなスキルが求められている時代になっている。そこを大学として充実すれば良いと思うので、一言書き加えてもらいたいのではないか。

(委員長) 単にリーダーシップの育成という言葉のみを書き加えるのではなく、周りを動かせるだけの力を身に付けていくというような表現になると思う。

(委員) 幅広い視野と豊かな人間性を育成しようと思ったら、そのような観点が必要だということだと思う。

(委員) 4年間では難しいと思うが、学生に求められていることを目標として欲しい。カリキュラムマップの作成時にリーダーシップの確立が盛り込むことができれば結果としてついてくると思う。

(委員) 大学生の時は、リーダーシップを世の中から求められているという感覚が無いと思う。以前は、リーダーシップが無いと世の中で通用しないということと言われておらず、個々の力があればやっていけたという感覚があったが、今はそういう時代ではないということをお願いしたい。

(委員長) 大学のカラーは長い歴史の中で出てきている。その中で培われた一人ひとりの学生の力が様々な分野へ出ていく。カリキュラムの中で、大学が与えたものに対して学生が対応して成績を取得する方法に加えて、尾道市立大学というカラーを出すといいと思う。

(委員) 今回の計画は、尾道市立大学のカラーを出しつつあると期待している。具体的な数値が書かれているのも分かりやすい。

(法人) 全国的に学力の3要素が強調されている。第1の学力は、知識と技能を身に付ける、第2の学力は、思考力、判断力を強める、第3の学力は、組織の中で協調する力を身に付ける、この延長線上にリーダーシップがあると思う。

現在、尾道市立大学は県内からの入学者が少ないが、これから人口が減少していくなかで、地元志向は強まると考えている。しかしながら、近隣の高校や企業との繋がりを強めなければならないと思う。

(委員長) 基礎的な力、判断力、応用力を育てようという部分が計画に記載されていると思う。学生をグローバルに育てるためには、教員の活動が必要だと考えている。そのためにもサバティカル制度の充実が必要だと思う。

### 【3 学生への支援に関する目標】

#### (2) 学生生活の支援

(委員長) 成績不良者・退学者数を減ずる課題整理と体制整備を行い、学生生活全般の状況を把握し指導する体制を整備するという記載があるが、大学として意図的に取り組むべき重要な課題と理解しているか。

(法人) 学生の経済状況等、実態をあまり把握できていない。学生生活の実態調査をやる必要があるので今年から実施していく。

経済的困窮者は授業料の支払いができないので、休学して働いていると聞くので、よりきめ細やかな支援が必要だと考えている。

(委員長) 次に出てくる年度計画で年度ごとに段階的に実施し、努力したといった言葉や、支援したという言葉で評価が終わらないようにしてほしい。

### 【5 業務運営の改善及び効率化に関する目標】

#### (2) 業績評価制度の確立

(委員長) 業績評価制度は、第1期中期計画でも記載してあったが、目標とするところまで完了していて、さらに充実させるという意味か、それとも目標とするところまで至っていないため、確立するという意味か。

(法人) 年報を参考に毎年の優秀教員を選定し、表彰している。また、学長裁量の特別研究費の選考に活用する制度を行っているが、どのように活かすか今後取り組まなければならない。

(委員長) 業績評価制度は自己評価の積み重ねだと思う。第三者から見て教員の評価を数値で表す形まで確立していくのか、優秀教員を評価するのか、どの程度まで制度を確立していくのか。

(法人) 優秀教員と研究活動への支援ということ。知見配分を含めて活用している。

(委員長) 教育研究費に関して、傾斜配分はついているか。

(法人) 傾斜配分となる。全体の特別研究費を申請に基づいて評価をしていく。

(委員長) 教員が納得する業績評価制度ができれば、一番いいと思う。地方大学は、地域貢献が重要だと思う。講演を何回したという回数を競ったりするのではなく、地域や社会が変わる地域貢献を見直していかなければならない。計画の文言を変えるわけではないが、議論の意図をくみ取って

もらい意識してもらえれば良いと思う。

数値目標を掲げているので、そこを取り組めば評価に繋がると思う。  
市が定めた目標に6年間の間に項目ごとの成果を示してもらいたい。

#### 【7 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標】

##### (2) 情報公開及び広報活動の推進

(委員) 新たなメディアの活用とあるが、実際にイメージしている具体的なものがあるか。広報PRに力を入れた方がいいと思うが。

(法人) 現在の広報としては冊子の配布がメインになっている。他には各教職員が足を運んで行う広報活動をしている。メディアでいうとウェブ、SNSではツイッターやフェイスブックを行っている。しかし高校生に親しみがあるラインは現在行っていない。現在の内容では十分ではないので、現在活用しているメディアを充実させてより広く配信し、伝わりやすいメディアを探していく必要がある。また、新たなメディアが出てきた際に対応できる計画としている。

(委員長) 今のようなメディアは受験生を意識したものか。尾道市立大学として広報活動をしているというのはホームページか。

(法人) 大学案内や実際に足を運ぶ広報活動は、高校からの要望があり、受験生の志願に繋がっているので続けていく必要があると感じる。入試等はウェブ出願があるので、受験生にとって出願しやすい形にしていきたい。

(委員) 尾道市は情報発信を行う広報セクションはあるが、PRのセクションがない。単なる広報で情報を公開しているということではなくて、誰かが考えて積極的に動かないといけない。計画の文言はこれで良いと思うが、実際は力を入れて行う必要があると思う。

(委員長) 尾道市立大学のブランド力の向上を図るためにメディアを使うことが記載してある。尾道にある市立大学というブランドを発信していくためには、単なるメディアの活用だけではなく、力を入れないといけない。

### 3 公立大学法人尾道市立大学の年度業績評価方法について

公立大学法人尾道市立大学の年度業績評価方法について事務局から説明を行い、平成30年4月1日改正箇所については、全会一致で承認された。また、第2期中期計画の年度評価に関わる箇所については、平成30年度の評価委員会で審議することとした。

### 4 その他

平成30年度尾道市立大学一般入試願書受付状況について法人の方から説明を行った。